

2018前期終業メッセージ（生徒総会にて）

2018.10.10

昨日の帰りのバスの中でのことです。1年生の女生徒3人が私の近くで話している言葉が耳に入ってきました。話の前後・流れはわかりません。聞こえてきたのは「知らんって平和」という言葉。私はその場で「今の言葉について、明日話させてもらうけどいいかな」と彼女たちの了解を取りました。

確かに私たちは、知ったが故に悩んだり、知ったが故に対立したりします。しかし知らない方が平和、知らない方が幸せということでは、学ぶこと、学校に通うことの意味は無くなります。私は職責をかけて、これには反論しなければならぬわけです。

私たちはなぜ学ぶのでしょうか？私の答は「幸せになるため」。ある人は「自由になるため」と言います。考えてみれば、「幸せ」とは、自分の人生を自由に自分らしく生きること他にありません。ノーベル賞学者の益川敏英先生は著書の中で、「レバーが二つあるとします。一つを引っ張ったら青酸ガスが出てきて、それと違う方

を引いたら、100万円が出てくるとしましょう。『さあ、自由に、ご自由にレバーを引いて下さい』といったときに、自由はあるでしょうか」と問いかけ、そこには自由はない、偶然性に身を任すだけだと指摘されています。「自由になる」ためには、「こうしたらこうなる」という必然性を知ることが必要で、偶然に身を任せることではありません。私たちはその「必然性」を知るために学ぶわけで、言い換えれば、自由に生きるために学ぶのです。

そして学校には大勢の仲間がいます。学校は大勢の仲間の「自由」を「相互承認」する術を学ぶ所でもあります。「自分だけ自由に」と言うのでは、真の自由は得られないのです。ベストセラーとなった新書に「友だち幻想 人と人のくつながり」を考えます。「相手を他者として意識する」ことが重要。気が合う人もいればそうでない人もいる。「友だち100人」とか「みんな仲良く」なんて無理。大切なことは「異質な他者」との付き合い方を学ぶこと。それは距離感覚を磨いて、マナーとかルールを守ること・・・



みなさんがここで勝手に言いたいことを叫ぶ自由は、私の話を聞きたいと思っている仲間の自由を損ないますから、ありません。学校生活において他人を傷つけるような言動はルール違反。本校ではアウト、絶対に許されない。

知識を学ぶだけが学校の役割ではありません。集団で協働できる力を身につけること、これも重要な学校の役割です。そこに生徒会活動の意義もあるのです。いよいよ今年度も後半に入ります。兄弟社高校入学という選択を正解にしつつありますか。後期はぜひ、その点で、大きく前進する学期にして下さい。以上前期終了にあたってのメッセージとします。